

## 4 取組指針(案)に基づくフォローアップの実施

### 4.1 フォローアップ計画の作成

#### 4.1.1 フォローアップ計画のねらい

地域の景観形成の実践に向けては、プロセス、意識、取り組みの課題への対応が求められる。すなわち、住民一人ひとりの景観に対する意識が低く、多様な主体の参加が得られていなかったり、また、具体的な取り組みの方法が分からなかったりといった実情から、景観づくりに向けた活動が必ずしもうまくいっていない地域への助言や支援が必要である。

そのため、取組指針に即した活動を四国全体で展開していくためのフォローアップ計画を検討する。

#### 4.1.2 フォローアップの考え方

- フォローアップは、景観形成に取り組もうとする地域単位で行う。
- 景観・風景づくりの主役である市町村及び地域団体を交えた地域検討会を開催し、活動の成功要因や失敗要因(どの様な行動や考え方がポイントになっているか)を分析する。
- 分析に際しては、できる限り地域の人の動きや人間関係を明確にする。
- 外観のみならず、農林水産業や商業活動など、そこで展開されている生活や経済活動に必ず目を向け、それらを維持・再生していくための方策(活動資金の確保など)を併せて議論していく。
- 地域検討会は、以下のようなメンバーにて開催する。
  - ・勉強会のテーマに応じた市町村(景観行政団体)及び地域づくり団体
  - ・四国担当課(課長・係長)
  - ・国土交通省 / 四国地方整備局関係部局及び各地域事務所
  - ・アドバイザー / 学識経験者
- フォローアップは、各地域での活動に対して以下のような手順にて実施する。
  - ①外観のチェック ～まちを歩き、地域内外の視点から見る
  - ②内面のチェック ～ヒアリングにより地域の暮らしぶりや営みを把握する
  - ③取組指針との整合性分析
  - ④将来を見据えた助言
- 定期的なフォローアップの実施。
 

上記①～④のプロセスを、定期的(1～3年に1回程度)に繰り返す

### 4.1.3 フォローアップの実践

#### (1) 外観のチェック ～まちを歩き、地域内外の視点から見る

##### 1) コースを決める

まち歩きのコースは、各自気になった点について写真などを撮影しながら約 1 時間程度でゆったり回れるコースとする。

コースは、主要な観光施設や地域で来訪者にお進めしたい風景・景観、地域として問題となっている風景・景観などを加えたものとする。

##### 2) 見る視点を定める

地域の特性に合わせて以下のような視点を組み合わせながらまち歩きを行う。

- 地域に調和した風景・景観、地域に調和しない風景・景観
- 豊かな自然資源
- 眺望景観
- 地域の魅力、雰囲気づくり
- 地域の人々の活動、もてなしの心
- 案内機能、歩行者動線
- 商業施設などの魅力

##### 3) 気付いた点を内部、外部両方の視点、そして専門的見地からそれぞれ説明する

見る視点を中心に地域内の人、地域外の人それぞれの感想を述べてもらう。

その結果、地域内外の人にとって魅力的、美しい風景・資源を抽出するとともに、地域内の人には魅力のないものが、地域外の人から見ると意外に魅力的であったりする資源や景観などを抽出する。

さらに、学識経験者や景観アドバイザーなどの専門的見地から、地域の歴史性や地形的特性などを踏まえた地域の外観のチェックをしてもらうことにより、地域資源を学術的見地より再点検を行う。

#### (2) 内面のチェック ～ヒアリングにより地域の暮らしぶりや営みを把握する

ヒアリングはプロセス、意識、取組という 3 つの視点を中心に以下のような内容について行う。

##### 1) プロセスの視点からのヒアリング

- 今まで行ってきた地域の活動内容、活動の主旨
- キーパーソンとなった人物
- 地域活動のきっかけ
- 地域の課題として何があるのか、その課題に対してどのような活動を行ってきたのか
- 地域の課題を解決するために行った活動に対して、地域住民や来訪者からの評価

##### 2) 意識の視点からのヒアリング

- 地域の風景・景観・資源に対する住民一人ひとりの意識
- 地域活動に対する住民の意識
- 地域住民の意識の変化があらわれたきっかけ

### 3) 取組の視点からのヒアリング

- どんな人がどの様な活動をしているのか
- 外部からの人材登用は
- 住民と企業、行政との協働
- 活動の体制はどうか
- 活動資金の調達方法は
- 成功にポイントは何か
- 今後の活動を行うに際して必要な支援は何か

### (3) 取組指針との整合性の分析

プロセス、意識、取組の 3 つの視点を踏まえ、地域の現状・課題分析を行うとともに、取組指針との整合性の分析を行う。

### (4) 将来を見据えた助言

#### 1) 10 年先を見据えた目標設定

取組指針において、地域の活動に際して今後必要な取組を分析した結果から、10 年先を見据えた地域の目標の設定を行う。

地域の目標は、地域の良いところを更に伸ばし地域を活性化させていくものや地域の悪いところを修復し、より良い地域として発展させていくための目標設定に向けて専門的見地より助言を行う。

#### 2) 次回フォローアップ時までの具体的アクションに関する助言

次回フォローアップの時期を決めるとともに、10 年後の目標も踏まえ、短期的、中期的にできる具体的なアクションを助言する。

## 4.2 ケーススタディの実施

## 4.2.1 モデル地域におけるフォローアップ実施

地域検討会は、以下のような日程で開催した。なお、フォローアップは地域検討会の内容を踏まえ実施する。

開催日程				
開催日時	開催地・会議室	分類		
		広域的 (お遍路)	観光地 域交流	中山間 地域
平成 20 年 12 月 8 日 13:00～16:10	高知県梶原町ししまる地区 梶原町総合庁舎 2 階会議室 1			○
平成 20 年 12 月 9 日	徳島県三次市西祖谷地区 かずら橋夢舞台 会議室		○	
	14:30～17:30 徳島県勝浦町 ふれあいの里 さかもと 研修室	○		○
平成 21 年 3 月 17 日 13:00～15:30	愛媛県松山市道後地区 子規記念博物館 2 階会議室		○	

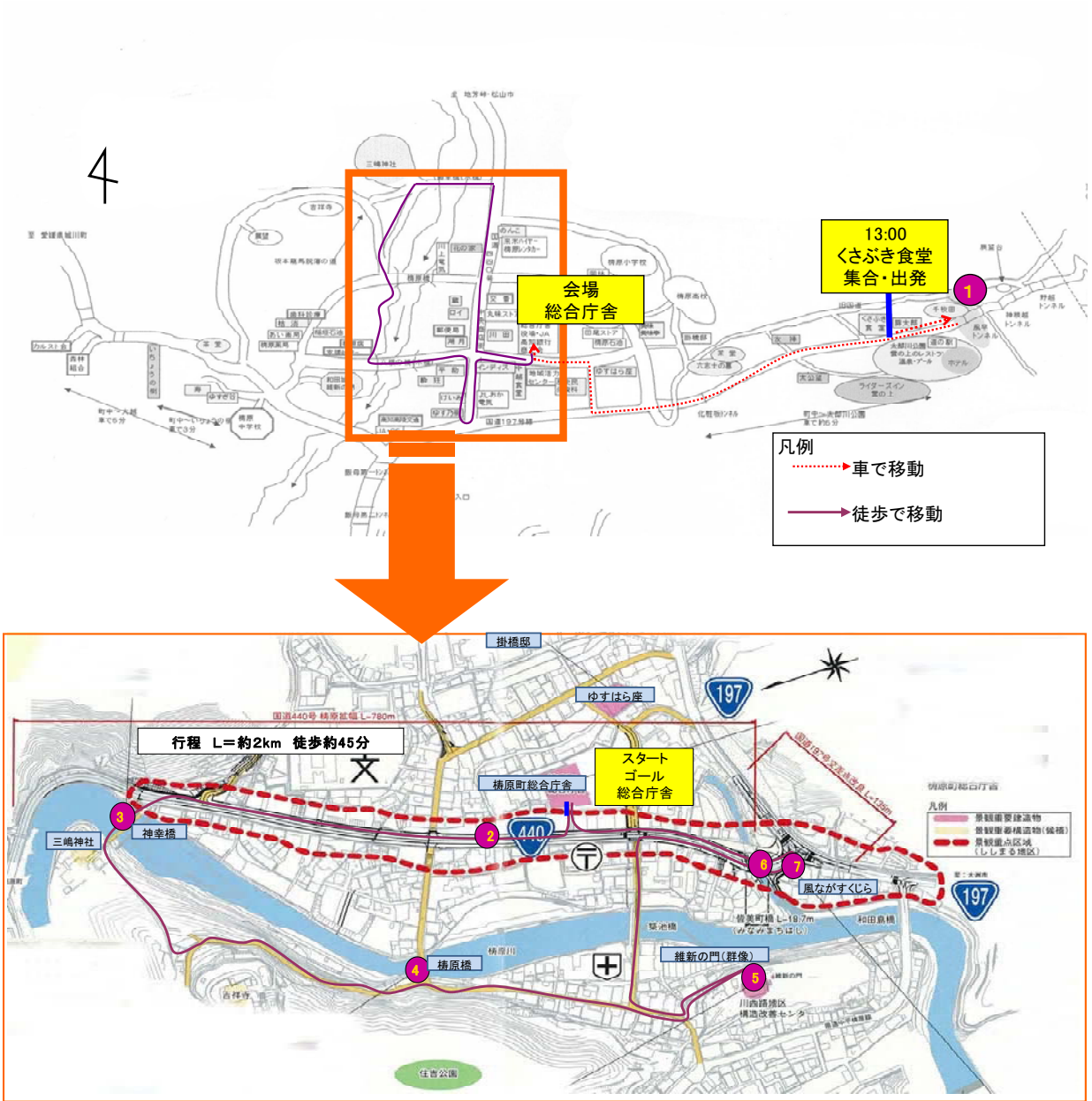
## 4.2.2 高知県梼原町ししまる地区

## (1) 開催概要

日時	平成 20 年 12 月 8 日(月)13:00～16:10
場所	梼原町総合庁舎 2 階会議室 1
内容	<p>1. 梼原町ししまる地区(国道 440 号沿道地区)などの散策・視察</p> <p>2. 意見交換</p> <p>(1)挨拶等</p> <p>①四国地方整備局</p> <p>②出席者紹介</p> <p>③アドバイザー挨拶 東京大学都市工学科 羽藤准教授</p> <p>(2)四国四県の取組指針の検討、モデルプロジェクトの趣旨説明及び第2回勉強会のおさらい</p> <p>(3)梼原町ししまる地区でのまちづくり活動の紹介</p> <p>(4)ししまる地区のまちづくりを進めるに際しての視点</p> <p>(5)意見交換</p> <p>(6)その他</p> <p>①今後の予定等</p> <p>②閉会挨拶</p>
出席者	<p>羽藤 英二 (東京大学 都市工学科 准教授)</p> <p>西川 豊正 (たくみの会会長、東区区长)</p> <p>西村 義幸 (龍馬会)</p> <p>中越 利明 (老人クラブ)</p> <p>岩本 直也 (梼原町 環境推進課 課長)</p> <p>上田 善啓 (梼原町 環境推進課 参事)</p> <p>高橋 里香 (梼原町 環境推進課 主事)</p> <p>香川 泰良 (四国地方整備局 企画部 技術企画官)</p> <p>高橋 淳二 (企画部企画課 課長補佐)</p> <p>原田 めぐみ (徳島県 都市計画課 技師)</p> <p>鈴木 絢子 (香川県 都市計画課 主任技師)</p> <p>筒井 紀裕 (高知県 都市計画課 主査)</p> <p>黒岩 健一 (高知市 都市計画課 主任)</p> <p>高橋 史 (東かがわ市ニューツーリズム協会 職員)</p> <p style="text-align: right;">(計 14名)</p>

(2) 外観のチェック ～まちを歩き、地域内外の視点から見る

1) コース



2) 見る視点

- 豊かな自然資源
- 地域の魅力、雰囲気づくり
- 地域の人々の活動、もてなしの心

3) 気付いた点の確認

① 神在居の棚田の景観について

- 千枚田は町の財産だと思う。
- 棚田を一望できるすばらしい場所があるが、トンネルの坑口のところが気になる。
- 千枚田の背景となる山の稜線もすばらしいがアンテナが気になる。



棚田の景観



山のアンテナ

② きれいに整備されたがゆえの気になる点について

- 新しい建物になってしまって、作られた感の印象が強い。
- せっかくきれいに整備されているが、看板の赤字・黄色字や自動販売機の色、ゴミ置き場などが一層気になる。



インパクトのある役場



作られた感の印象が強い新しい建物



気になる看板の色、自動販売機の色

③地域の活動が感じられる整備

- 町の3つの方針である「健康」「教育」「環境」が町に深く浸透している。
- 雑草がなく綺麗に手入れされた棚田の美しさ、ゴミひとつ落ちていない道におどろかされる。
- 祭りの際の旗を立てる工夫や、樹木のライトアップイルミネーションを沿道の居宅から配線するなど、まちの人の協力の度合いが伺える。



綺麗に手入れされた棚田



ゴミのない歩道



祭りの旗立てに使用する工夫



イルミネーションの工夫

④地域の魅力、雰囲気づくり

- コンクリートの護岸はもったいない。川があれば降りてみたいという気にさせる。
- 川沿いの石積みがきれい。
- 集落としてのまとまり感がある。ホッコリとした空間に入った感じ。うねった小径などもいい。
- くさぶきは、大変素晴らしい建物だと思う。
- 全体の眺望、突出する建物が無く、山をいかすことが景観のひとつの要素かなと思う。
- 裏路地の街灯、電柱に付けられた看板が統一されていて良い。



川べりの配慮が必要



魅力的なくさぶき屋根



景観になじむように工夫された看板



昔の石標をモチーフにした標識



### (3) 内面のチェック ～ヒアリングにより地域の暮らしぶりや営みを把握する

- 東かがわ市引田地区は中世のころより瀬戸内海を運行する船の「風待ちの港」として栄えてきた。町のメインストリートである本町通りには江戸末期～明治・大正期の商家造り・町家の建物が点在している。本町通りから海にのびる路地など昔ながらの地割を残す、特徴的な町並みとなっている。
- 東かがわ市はこうした町並みを活かした観光交流を振興するため、平成 17 年 2 月に酒・醤油醸造の商家旧井筒屋を町並みの観光交流施設「讃州井筒屋敷」にリニューアルオープンした。同年 4 月当協会が指定管理者として施設の運営を開始した。
- ここでは母屋の見学や地場産品(和三盆、手袋など)の体験、地魚を使った食事、地域住民のチャレンジショップでの買い物に来訪者に提供している。この施設を中心に引田の歴史町並み案内や引田の味と生活文化を楽しむ「ガイドと歩く引田味めぐりツアー」という地域住民が積極的に参加する観光交流事業に取り組んでいる。特に町並みの 60 軒の家々が雛人形を展示する住民参加型イベント「引田ひなまつり」は香川県だけでなく、四国や近畿方面にも広く知られるようになり、平成 19 年開催時には 1 週間で 7 万人の来訪者があった。

### (4) 取組指針との整合性の分析

取組指針からみた現状の問題点は以下のとおりである。

- すばらしい四万十の源流に人を導く工夫が大事である。
- 水辺空間のひと工夫が求められる。
- 川があれば降りてみたいという気にさせる。川側からの眺めを気にすること、川べりの配慮が必要。
- 始点となる既存の駐車場をどう舞台装置にするのか、戦略が必要。
- 龍馬会の龍馬など、もてなしの心や演出、このようなガイドによるもてなしの工夫が好感を抱かせる。

(5) 将来を見据えた助言

1) 10年先を見据えた目標設定

10年先を見据え、地域の魅力を活かした風景づくりを進める方策として以下を提案する。

○「森林と水の文化」を未来へ継承する景観づくり

住民一人一人の誇りと自信を育み、快適な生活空間と地域の活力を育む梶原の素晴らしい風景、伝統文化、それらが一体となった「森林と水の文化」を未来へと引き継いでいくための景観づくりを進める。

また、森林セラピーロードを歩き、梶原の魅力あふれる大自然を満喫し、環境への意識を向上させること等も進めていく。

○日本最後の清流と言われる美しい景観が残っている地域を未来へ引き継ぐ

四万十川流域5市町(四万十市・四万十町・中土佐町・津野町・梶原町)で連携し日本最後の清流と言われる美しい景観(永く営まれてきた生活そのものが景観)が残っているこの地域を未来へ流域住民が共通の理念を持って引き継いでいこう。という認識のもと取組みを進めており、重要文化的景観として、国選定文化財に答申された。文化的景観が広域で選定されるのはわが国初ということで、これを契機に人と自然がつくりあげた景観を再認識し、農林水産業の活性化、地域コミュニティの推進、新たな生業を生み出す知恵の可能性を考え、未来への継承と全国に向けた発信に取り組んでいく。

2) 次回フォローアップ時までの具体的アクションに関する助言

目標の達成に向けて実施する具体的取組として、以下のアクションを概ね5年間で行うことを提案する。

○「森林と水の文化」を未来へ継承する景観づくり

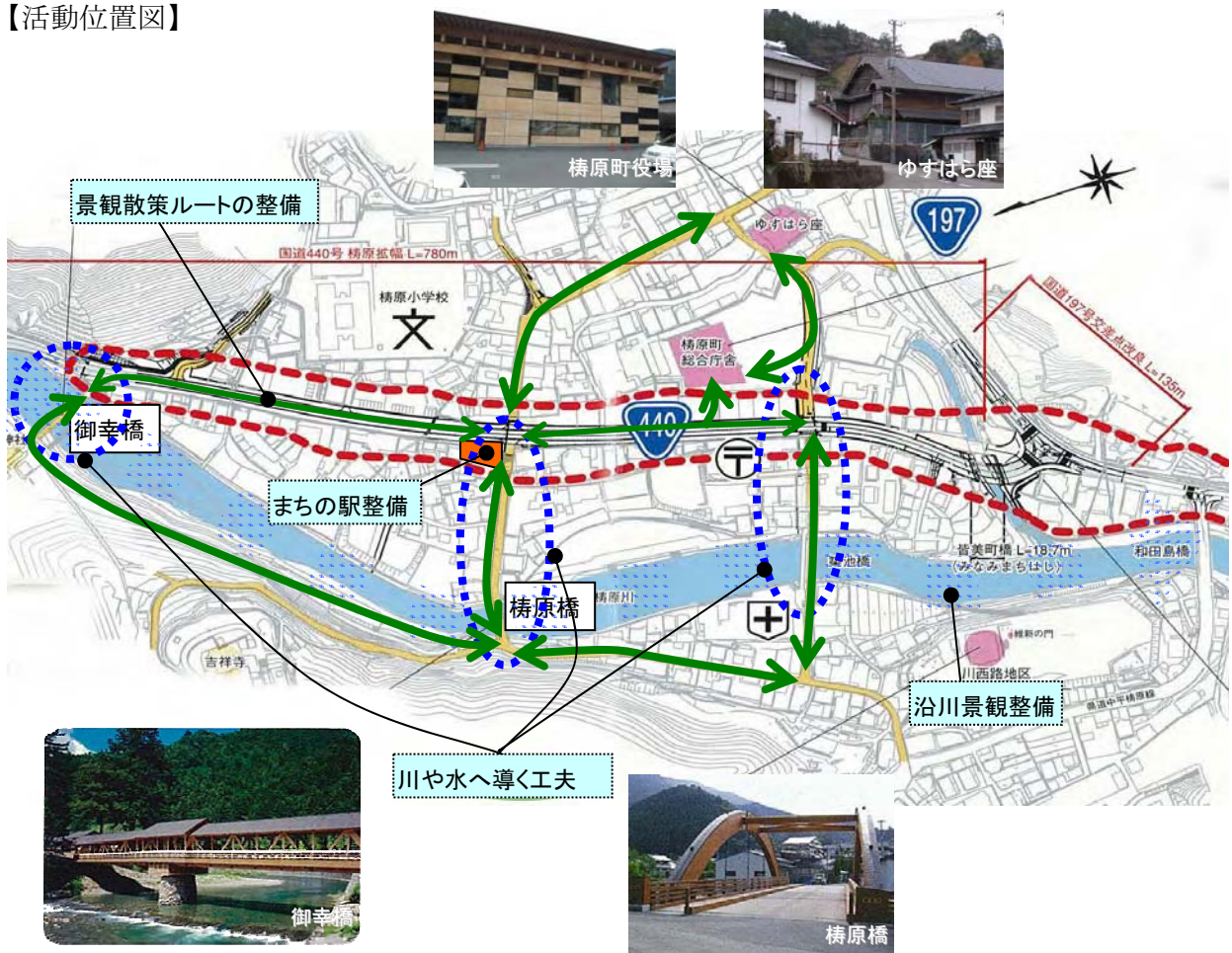
- ししまる地区にふさわしいまちの駅整備と町役場駐車場との接続整備
- 景観散策ルート整備(四万十源流である梶原川への誘導、川沿景観整備)
- 景観計画の住民への周知
- 景観を守り続ける地域のリーダーとなる人材の育成、協力してくれる人の輪を広げる

○日本最後の清流と言われる美しい景観が残っている地域を未来へ引き継ぐ

- 重要文化的景観の選定を契機とした景観づくりへのPRの継続(広域的視点からの重要性PR)
- 広域での来訪者誘致の仕組みづくり
- 全国・世界へ向けた発信方策の検討と連携
- 重要文化的景観の実践的保全に向けた取組の推進

取組	実施時期				
	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目
ししまる地区にふさわしいまちの駅整備と町役場駐車場との接続整備					
景観散策ルート整備(四万十源流である栲原川への誘導、川沿景観整備)					
景観計画の住民への周知					
景観を守り続ける地域のリーダーとなる人材の育成、協力してくれる人の輪を広げる					
重要文化的景観の選定を契機とした景観づくりへのPRの継続(広域的視点からの重要性PR)					
広域での来訪者誘致の仕組みづくり					
全国・世界へ向けた発信方策の検討と連携					
重要文化的景観の実践的保全に向けた取組の推進					

【活動位置図】



## 4.2.3 徳島県三好市西祖谷地区

## (1) 開催概要

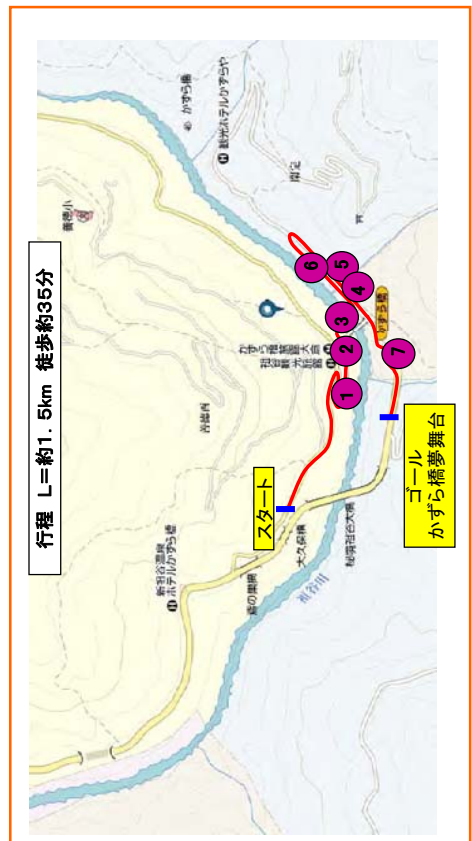
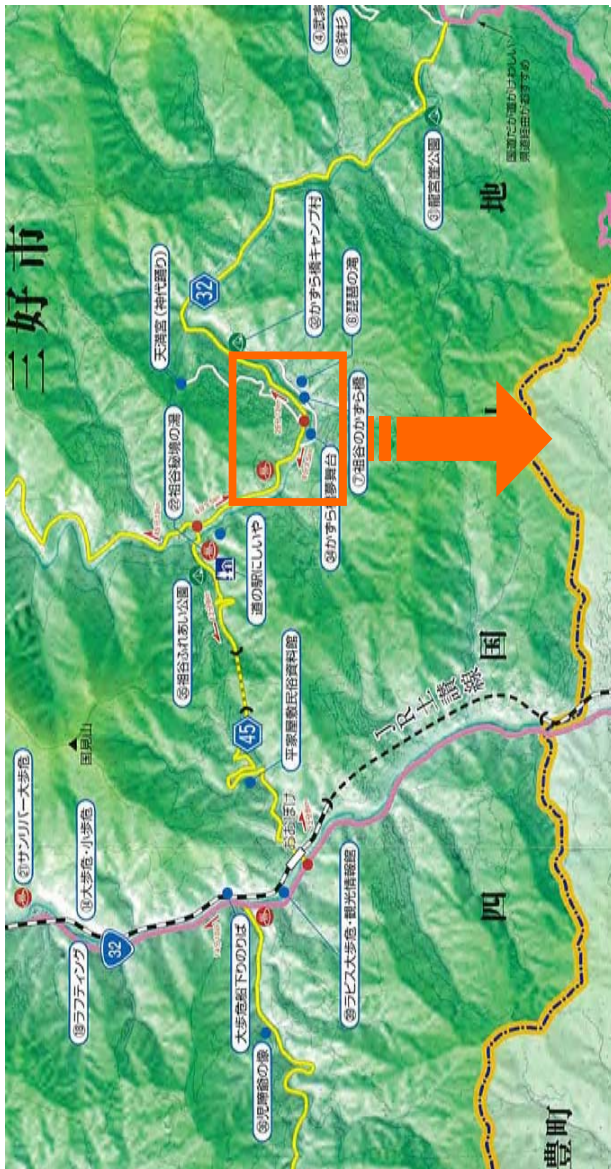
日時	平成20年12月9日 8:00~11:00
場所	徳島県三好市 かずら橋夢舞台 会議室
内容	<p>1. かずら橋周辺地区の散策・視察</p> <p>2. 意見交換</p> <p>(1) 挨拶等</p> <p>① 四国地方整備局</p> <p>② 出席者紹介</p> <p>③ アドバイザー挨拶 東京大学都市工学科 羽藤准教授</p> <p>(2) 第3回勉強会のおさらい</p> <p>(3) かずら橋周辺地区でのまちづくり活動の紹介</p> <p>(4) かずら橋周辺地区のまちづくりを進めるに際しての視点</p> <p>(5) 意見交換</p> <p>(6) その他</p> <p>① 今後の予定等</p> <p>② 閉会挨拶</p>
出席者	<p>羽藤 英二 (東京大学 都市工学科 准教授)</p> <p>谷口 宏 (西祖谷山村観光協会 会長)</p> <p>藤堂 興宏 (西祖谷山村観光協会 副会長)</p> <p>橋本 正治 (西祖谷山村観光協会 役員)</p> <p>平栗 春正 (西祖谷山村観光協会 役員)</p> <p>大境 克典 (三好市 観光課 主任)</p> <p>宮田 健一 (三好市 観光課 主事)</p> <p>香川 泰良 (四国地方整備局 企画部 技術企画官)</p> <p>高橋 淳二 (企画部企画課 課長補佐)</p> <p>原田 めぐみ (徳島県 都市計画課 技師)</p> <p>鈴木 絢子 (香川県 都市計画課 主任技師)</p> <p>筒井 紀裕 (高知県 都市計画課 主査)</p> <p>黒岩 健一 (高知市 都市計画課 主任)</p> <p>高橋 史 (東かがわ市ニューツーリズム協会 職員)</p>

(計 14名)

(2) 外観のチェック ～まちを歩き、地域内外の視点から見る

1) コース

かずら橋周辺の散策・視察 ルート図



1 対岸の道路から見えるかずら橋夢舞台の構造物

2 かずら橋の渡り口付近、宿泊施設や土産物店がならぶ。

3 【かずら橋】民謡「祖谷の粉引き節」に歌われるかずら橋は、平家一族が退つてから逃れるためにいつでも切り離せるように造ったといわれる。県指定重要文化財に指定されている。

かずら橋の四季

5 かずら橋出口付近。土産物の販売や郷土料理の提供を行う店が並ぶ。

7 郷土食が味わえる小さな休憩施設が沿道に点在する

4 【琵琶の滝】かずら橋のほとと近くにあり、平家が琵琶を奏でた音が響き渡ると伝えられる。高さ50mの優美な滝である。

6 水鏡公園が整備され、紅葉が行われている

## 2) 見る視点

- 豊かな自然資源
- 眺望景観
- 地域の魅力、雰囲気づくり
- 地域の人々の活動、もてなしの心
- 案内機能、歩行者動線
- 商業施設などの魅力

## 3) 気付いた点の確認

### ① 景観・風景について

- 駐車場は景観に合わないのではないか。フジカズラを使って景観をよくしてはどうか。
- かずら橋の管理棟は風景に合ったしつらえにしてはどうか。舞台上の建物をやめて古民家風にしてはどうか。
- 商品価値を上げるための周辺の景観づくりに力を入れることが重要。次世代に残すために何をするかを考えなければならない。
- 滝見橋から滝を見た時に見える看板が台無しであり、店にとってもそこに看板がない方が良いのではないか。屋外広告物禁止については、地元がどのように地域をPRするかとのバランスを考えることが重要。
- 景観のポイントが一つだけであり、もっと良いポイントを増やす努力が必要。
- 善徳不動の碑の横のブルーシートが目立つ。
- メニューの雰囲気は良いのに、室外機がある、商店の庇の色がカラフルであるなど雰囲気づくりが大切。
- かずら橋の管理棟は風景に合ったしつらえである。木の看板が溶け込んでいる。



駐車場の景観



滝見橋から滝を望む景観



善徳不動の碑周辺の景観



商店の景観



風景に溶け込んだかずら橋の看板



## ②案内機能、歩行者動線の充実

- 大歩危からの案内(看板)づくりが必要ではないか。
- かずら橋まで誘導する案内に統一性がなく、歩行者の動線が整備されていない。回遊性をどのようにつくるか、範囲をどのように広げるかなど取組みが必要。

## ③商業施設の魅力化、もてなしの心

- 観光客がリピーターとなっていただくための商店づくり、空き施設(宝物館)の活用が必要。機能の集約をすべき。
- 転落防止柵についても、本物のかずらを使うのと擬木を使うのでは異なる。できるだけ本物を使用する。
- かずら置き場は一つの魅力である。
- 基本は本物の素材を使用すべき。また、地元の食材・食事を活かすべき。
- 自販にマップが貼っているなど心配りがよかった。



既存の商業施設



かずらを使った転落防止柵



かずら置き場

## ③地域の魅力、雰囲気づくり

- 地域の魅力はダイナミックな風景。資源が広範囲に広がる場所であり、写真に撮る良いシーンはある。その歴史・物語などが読める看板などが必要。
- 秘境イメージと大衆イメージがあり、イメージの作り方が重要。イルミネーションは慎重にすべき。
- 「かずら橋を渡ったら幸せになれる」などのイワレづくりが必要ではないか。
- 四季が魅力であり、長期の時間をこの場で過ごし、楽しむプログラムが必要。
- かずら橋の風景と川の水を触った過去の体験が記憶に残っている。体験が重要。
- 水際と楽しめる空間の存在が良い。



ダイナミックな風景



かずら橋

### (3) 内面のチェック ～ヒアリングにより地域の暮らしぶりや営みを把握する

- 「祖谷」秘境として名を轟かせているが、現実には観光化され今まで存在していた個性も薄れてきている。そこで、もう一度「祖谷」秘境としての個性的雰囲気を考え直し、充実を図らなければならないと考えている。
- そのため、地域の特徴を生かした産業・レジャー・生活を総合的に融合させて地域の人々が共に働き、共に活気のある生活が出来るように細心の注意をはらい企画開発し、最大の目的とする地域の活性化と祖谷の景観美に役立つ様に努力すべきであると考えている。
- かずら橋は本地域の広域観光の要であるだけに、それにふさわしい受け皿を整備する必要がある、「自然指向、本物指向を反映して、自然条件、ロケーションを最大限に活かし、調和すること」がポイントとなる。
- かずら橋だけではなくその周辺も含めた「橋の風景」が観光対象のはずであるが、周辺における施設の立地が進み、橋の風景に奥行感がなくなっている。こうした事態を解消していくために、地域住民の皆様にも主旨を理解いただきながら、周辺施設のデザイン面での統一、また植樹による景観対策を行っていききたい。
- かずら橋の観光環境として、多数のお土産店・飲食店・宿泊施設等が立地しているが、快適さや特色に欠けるところがあり、観光客がかずら橋とその周辺をじっくり歩いて観光できるように、山間地らしいたたずまいと雰囲気を創出することに配慮したい。
- これまでに、かずら橋上流右岸の景観対策として、水際公園の整備を行った。食堂・民家の移転(3件)食堂及び民家を買収し、民有林を取得し、間伐や紅葉樹の植樹を行った。また、かずら橋ライトアップ、秋の紅葉シーズンでの祖谷平家まつり(イベント)を実施している。
- その他、大歩危・祖谷の道路沿い、かずら橋周辺のクリーンウォーク(ゴミ拾)を毎年5月に実施し、祖谷の自然美の保全活動を行っている。

### (4) 取組指針との整合性の分析

取組指針からみた現状の問題点は以下のとおりである。

- 商品価値を上げるための周辺の景観づくりに力を入れることが重要。夢舞台・駐車場はかずら橋の風景に調和しない。
- 滝見橋から滝を見た時に見える看板で風景が台無しであり、店にとってもそこに看板がない方が良くはないか。
- 景観のポイントが一つだけであり、もっと良いポイントを増やす努力が必要。
- 大歩危からの案内(看板)づくりが必要ではないか。
- かずら橋まで誘導する案内に統一性がなく、歩行者の動線が整備されていない。
- 回遊性をどのようにするか、範囲をどのように広げるかなど取組みが必要。
- 四季が魅力であり、長時間楽しむことのできるプログラムが必要。その際、地元の本物の素材を活かすべき。
- 秘境イメージと大衆イメージがあり、イメージの作り方が重要。



## (5) 将来を見据えた助言

## 1) 10年先を見据えた目標設定

10年先を見据え、地域の魅力を活かした風景づくりを進める方策として、以下を提案する。

**○かずら橋のたたずまいにふさわしい風景の創出**

当地区は、かずら橋だけではなくその周辺も含めた「橋の風景」が観光対象のはずであるが、周辺には利便性を優先した、かずら橋のたたずまいに調和しないデザインの施設が立地し、橋の風景に奥行感がなくなっている。

こうした事態を解消していくために、地域住民や事業者とともに、周辺施設や見所における修景の取組を進め、地区全体でかずら橋をより一層ひきたたせる風景を創出する。

**○かずら橋を拠点とした回遊性・滞在性の向上**

地区内でかずら橋以外に楽しめる場所が少ないため、見る・渡る以外の楽しみ方を提供できず、通過型の観光地になっている。

地域には平家の落人伝説や、伝統芸能、溪谷の四季の魅力があり、こういった資源を五感で楽しんでいただくことによって、回遊性や滞在性を高める。

## 2) 次回フォローアップ時までの具体的アクションに関する助言

目標の達成に向けて実施する具体的取組として、以下のアクションを概ね5年間で行うことを提案する。

**○かずら橋のたたずまいにふさわしい風景の創出**

- 夢舞台のデザインや沿道の看板など、風景上の問題点の共有
- 風景上の問題を緩和するための実験的取組(視界の遮蔽、植栽など)
- かずら橋のたたずまいにふさわしい風景を創出するためのルールづくり
- ルールに則した建物、道路、植栽などの整備の推進

**○かずら橋を拠点とした回遊性・滞在性の向上**

- 地域住民・事業者による地域資源を見直すためのワークショップ
- 各ポイント(道端、商店等)での新たな楽しみの魅力づくり(見る・渡る・味わう+聞く、触る、香る 等)
- 各ポイントをつなぐルート、ツアープログラムづくり
- 回遊ルート上における案内機能や修景整備の充実

4 取組指針(案)に基づくフォローアップの実施

取組	実施時期				
	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目
夢舞台のデザインや沿道の看板など、風景上の問題点の共有					
風景上の問題を緩和するための実験的取組(視界の遮蔽、植栽など)					
かずら橋のたたずまいにふさわしい風景を創出するためのルールづくり					
ルールに則した建物、道路、植栽などの整備の推進					
地域住民・事業者による地域資源を見直すためのワークショップ					
各ポイント(道端、商店等)での新たな楽しみの魅力づくり(見る・渡る・味わう+聞く、触る、香る 等)					
各ポイントをつなぐルート、ツアープログラムづくり					
回遊ルート上における案内機能や修景整備の充実					

【活動位置図】

